

2018年10月に「がんの時代」という本を出しましたが、それから2カ月も経ずに、ぼうこうがんを自分で発見しました。

年末に東京大病院に入院し、尿道経由の内視鏡手術を受けました。下半身の麻酔でしたから、電気メスによる切除の様子もモニターで見ることができました。幸い、40分という短時間で完全に切り取れましたが、再発予防のため、ぼうこう内の抗がん剤注入も受けました。

麻酔が切れると下腹部に激しい痛みを感じましたが、痛み止めの処方をお願いして、楽になりました。緩和ケアの大切さが身にしました。

4泊の入院で大みそかには

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

手術後の緩和ケア、身にしみる

退院できました。しかし、ぼうこうがんは再発しやすいが、がんの代表ですから、今後は長期間、定期的なフォローアップの受診を続けていきます。

皮から発生して、広がってきます。私の場合、カリフラワースタットの「表在性がん」でしたから、内視鏡切除が可能でした。

が、痛みを伴わない血尿が早期発見のサインとなります。私の場合、顕微鏡で分かるような血尿はありませんでした。脂肪肝のチェックのため

に自分で行っていたエコー検査で偶然に発見できたのは本当にラッキーでした。ぼうこうがんの「自己エコー検査」は別としても、乳がんのセルフチェックなどは誰でも簡単にできるはず。女性向けの健康情報サービス「ルナルナ」の調査でも、乳がん発覚のきっかけの46%がセルフチェックでした。しかし、乳がん経験のない女性の79%が「セルフチェックで見つけられる病気」と認識しながら、実際に定期的なチェックをしている人は7%にすぎませんでした。

しかし、もし発見が遅れて

が、痛みを伴わない血尿が早期発見のサインとなります。

（東京大病院准教授）